

# 宮古新報

7月22日 曜日  
2002年（平成14年）

発行所  
宮古新報社  
沖縄県平良市西里290-3  
郵便番号906-0012  
代表・(09807) 3-1212

第11865号 (日刊) © 宮古新報社 2002年

## ムツウサの活用探る



学識者や地元農家で構成された研究所の代表者が発表、提言した講演会。20日、城辺町農村環境改善センター

### 研究会が発表、提言 城辺町しま興し講演会

改善センターで開かれた。講演会では、仲間克町長が「宮古島は昔から薬草の宝庫と呼ばれている。健康、いやしをキーワードに町の特産品づくりをしていこう」と主催者あいさつ。同研究所の教授や地元農家が病気、美容と健康、皮膚科、栽培などのテーマに分けて発表、提言した。

【城辺】城辺町は現在町の特産品として「ビデンス・ピローサ（ムツウサ）」を商品化し、農業振興に活用している。その地域資源を広く町民、郡民に知ってもらおうと「地域資源を活かしたしま興し講演会」（主催・城辺町、共催・株式会社武蔵野免疫研究所）が二十日、同町農村環境

「宮古ピデンス・ピローサはどんな病気に効くか」では瀬山義幸星薬科大学教授が、ビデンスのエキスから研究した結果を説明。糖尿病、肝炎、胃かきいよう、外傷などに効能を発揮すると説明し、「漢方薬と同じように様々な作用を持っているが、細胞を活性化させ、脂肪を下げる作用を持つ。台

風や塩害の環境の中でも植物の持つ成分が蓄えられている」と話した。

そのほか、「美容と健康」「皮膚科」の観点からは、全身アトピー、むくみ、冷え性、金属アレルギー、便秘、温かい地域で足の関節に発生する

夏季潰瘍（かいよう）、手荒れ、慢性動脈硬化症、口内炎、粘膜の病気、リウマチ、強皮症などに効能を発揮することが分かったとアピールした。

最後に、「宮古ピデンス・ピローサ栽培と二次加工の現状について」と題して地元農家の宮国匡さんが「町、宮古圏域の新たな産業として位置付けてほしい。広く知ってほしい」と呼びかけた。